

語彙検索について

ここでは、本サイトにおける語彙検索に関して説明します。

○語彙検索

この語彙 DB は、初期指導として約 120 時間までの学習を想定した上で、その際の学習に必要と考えられる語彙を収めました。そのため、年少者の日本語教育の現場で用いられている代表的な教科書を中心に語彙を抽出しました。

120 時間くらいまでの初期指導の想定ですので、教科語彙については、基本的に多くは取り上げていません。ただし、教科移行の指導計画は含まれていますので、一部の（最低限必要と考えられる）教科語彙については取り上げ、リストの中に収めています。また、年少者日本語教育の実践者や専門家のアドバイスにより、最低限必要な教科語彙以外に、特に学校生活で必要と考えられる定型・慣用表現も入れることにしました。その他、年少者日本語教育の現場の先生方からの声を反映した語彙も一部追加しました。

また、ここに収められている語彙については、すべてを教えなくてはならないというものではありません。各現場の状況や必要に応じて、参考（資料）として選択していただきながら、その地域や現場で必要な語彙等については、適宜追加してご活用下さい。

語彙の出典は以下の通りです。

1. 『にほんごをまなぼう』（1992）文部科学省、ぎょうせい
2. 『みんなの日本語 初級』（1998）スリーエーネットワーク編、スリーエーネットワーク
3. 『日本語学級 1』（1999）大蔵守久、凡人社
4. 『日本語学級 2』（1999）大蔵守久、凡人社
5. 『こどものにほんご 1』（2002）西原鈴子監修、ひょうご日本語教師連絡会議。こどもの日本語研究会、スリーエーネットワーク
6. 『新版 いっしょにまなぼう みえこさんのにほんご』（2007）鹿嶋恵・石川博子、財団法人三重県国際交流財団
7. 『入国児童のための日本語教育』（1999）縫部義憲 スリーエーネットワーク
8. 『Somos Amigos! ともだちになろう：先生と生徒のための日本語・ポルトガル語会話集』（2003）豊橋市教育委員会、外国人児童生徒指導検討委員会

<語彙リスト作成方法・手順>

1. まず、上記 1～7 の出典ごとに語彙リストを作成し 1 つにまとめました。
2. その後、五十音順に並び替え、重なる語の削除、上記 8 より教科用語の追加、表記の統一など語彙の精査を行いました。
3. 『にほんごをまなぼう』（1992）の目次の項目をベースにタグを作成し、より利用者にわかりやすく、さらに必要であると思われるタグに精査しました。品詞については、形態素解析器 MeCab（IPA 辞書及び UniDic 辞書）を利用して品詞分解し、それを元に教室でよく利用される分類に編集しました。
4. 2 で作成された語彙リストに、3 で作成したタグを付けました。
5. 完成後に、再度、語彙とタグの見直しを行いました。